



Dr.塚田の健康コラム

ちょっと役立つ

流行の兆し？ はしかに用心

塚田芳久(つかだ・よしひさ) / 1979年新潟大学医学部卒。2016年から県立新潟田病院長、現名誉院長。23年からJA新潟厚生連理事長。新潟県ボウリング連盟会長(03年～)、JBC理事(08年～22年)、同副会長(20年～22年) / 日体協公認スポーツドクター、JOC医・科学強化スタッフ

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、令和2年から国民挙げての感染対策が3年以上も続きました。4年間にわたる国民的感染対策の徹底は、他の感染症の流行も抑えていました。昨年からは感染対策の緩和や人流の回復もあり、夏からはヘルパンギーナ、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、百日咳、この冬は季節性インフルエンザ、咽頭結膜熱など、小児感染症が世代や流行期を超え

て流行しています。なかでも注意が必要な感染症として、はしか(麻しん)が出現しました。はしかは空気感染する、感染力の強いウイルス感染症で、厄介です。特効薬はなく、対策はワクチンの接種が主体ですが、平成19-20年のはしか大流行では、若年者のワクチン接種率の低さが課題になっています。平成27年3月に、日本は排除状態(海外からの持ち込み感

染以外はなくなった状態)が世界保健機構に認定されました。一般の人はもちろん、医師にとっても縁遠い過去の感染症になっていましたが、先月は久しぶりに感染報告がありました。はしかは高熱を出すだけでなく、患者の1000人に1人は脳炎を発症し、生死にかかわるウイルス感染症です。空気感染に加えて、潜伏期が10日前後と長いので、急な増加より広域感染が厄介です。



2回のワクチンの接種歴が確認できない場合は、抗体価を確認して免疫の程度を測定する方法もあります。ただし抗体が低くてもワクチン供給が十分でなく、接種に時間を要します。

流行の兆しが見られれば、早めの問い合わせをお勧めします。予防接種以外には、患者に接触後2-3日以内にワクチンを接種することや、5-6日以内であればγグロブリン製剤を打つことが有効です。

国立感染症研究所の報告では、日本人の麻しん抗体(PA抗体)1:16以上保有率は96.2%あるので、大流行はないようです。一方で発症予防の目安1:128抗体保有率は85.7%と90%以下になり、とくに10代の低下は心配なところと



知って得するボウリング用品の知識

佐藤秀樹プロが指南

25. ボウリングピンにも歴史あり

今回はレーンについてお話ししましたので、今回はピンについてのお話をさせていただきます。ボウリングのピンの成り立ちは、古代のボウリングの起源にまでさかのぼります。初期のボウリングでは、木製の球を使って標的を倒すゲームが行われていました。このゲームが進化する過程で、標的として木製のピンが使用されるようになりました。

では、ピンを使ったゲームが広く行われており、これらのゲームがボウリングの発展に影響を与えました。

初期のボウリングのピンは、木製の材料で手作りされ、形状や大きさは地域や時代によって異なっていました。しかし19世紀になると、アメリカでボウリングが一般的な娯楽となるとともに、ピンの形状やサイズを標準化する試みが行われました。これにより、競技の公正性と一貫性が向上しました。

現代のボウリングピンは、プラスチックやその他の合成材料で作られることが一般的で



▲現在使用されているピンと、その断面

これらのピンは、耐久性や安定性が向上し、ボウリングの競技性を高めるために設計されています。また近年では、LEDライ

トが内蔵された特殊なピンも登場しており、ボウリング体験をより楽しく魅力的にするために利用されています。

次にボウリングピンの規格は、国際ボウリング連盟(World Bowling)によって定められています。以下は一般的なボウリングピンの規格です

高さ: ピンの高さは約15インチ(約38センチメートル)です。この高さはピンの頂点から底部までの測定です。

直径: ピンの底部(最も太い部分)の直径は約4.766インチ(約12.1センチメートル)です。

重さ: ピンの重さは約3ポンド7オンス(約1.56キログラム)から3ポンド9オンス(約1.62キログラム)の範囲に設定されています。この重さはピンが空気中で浮力を持ち、正しいバウンドと反応を生み出すためのものです。

形状: ピンは、トップから見て円形または多角形の形状をしています。これはピンが倒れたと

きに正しく計算されるようにするためのものです。

これらの規格は一般的なものであり、異なる地域や競技団体、ボウリングセンターによって、わずかに異なる場合があります。しかし国際的なボウリング競技では、国際ボウリング連盟の規格に準拠することが一般的です。

佐藤秀樹(さとう・ひでき) / 1982年8月22日生まれ、山梨県出身。2007年プロ入り、46期、ライセンスNo.1137。172cm68kg。所属：フリー。JPBA公認C級インストラクター、JBC公認ドリラー(シルバー)



棚橋孝太プロの プロショップ探訪

お客様本位のプロショップ運営

②川口スプリングレーンズ プロショップ (埼玉県川口市)

今月紹介するショップは、埼玉県川口市にある川口スプリングレーンズのプロショップです。

ドリラーは「マサ斎藤」こと斎藤政慶さんです。なぜそのようなミドルネームが付いたのかを尋ねると、斎藤さんが入社したころにサイトウと名の付く方が4名いて、サイトウさん!と呼ぶとみんなが振り向くということで、『君は体格がいいからプロレスラーのマサ斎藤だ』という流れで決まったそうです。

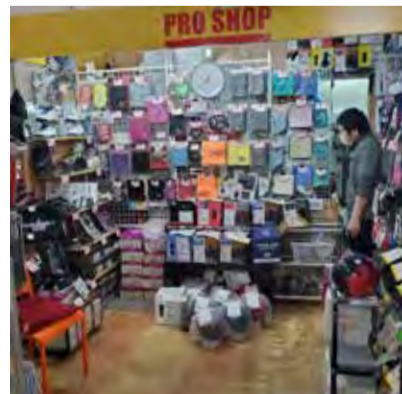
そんな斎藤さんですが、ボウリングのスタートは22歳のとき、楽天地浅草ボウルだったそうです。その後川口スプリング

レーンズに入社してドリル作業を担当するようになり、そこからドリルのキャリアは14年ほどです。

ボウラーとしてプロテストにも挑戦をしましたが、肩の韌帯

を切ってしまいプロを断念、その後公認ドリラーの資格を取得して、ボウラーのために勉強をしています。

話を伺っていると、ボウラーの目線を常に忘れずに、お客様



▲見て楽しんでもらうことも意識したディスプレイ

の気持ちをいちばんに考えていることがうかがえました。例えば新しいレイアウトの情報を察知すれば、まずは自分のボールで試してお客様にフィードバックできるようにしたり、テープの販売コーナーでは「実際に使ってもらわないとわからないですからね」と、お試用を無料で置いています。

またお休みは週に1-2日ですが「要望があれば、休みでも時間を合わせて出ています」と、あくまでもお客様本位の対応を心がけています。ラグビーで鍛えたたくましい見た目と、優しい気持ちのマサさんは、きっとお客様に愛される存在なのだろうと確信しました。

ドリルをする際の信条は「まずはけがをしないドリルを心がけており、サムの調整はとことん行います」とのことです。決して大きくはないスペース



▲「ボウラー目線でお客様に接しています」とドリル担当の斎藤さん

ですが、かなりの充実した品ぞろえで、お客様に見るだけでも楽しんでほしいとのマサさんの気持ちが詰まったショップになっています。お近くにお越しの際は、ぜひ遊びに行ってみてください。

棚橋孝太(たなはしこうた) / 1982年1月19日生まれ、高知県出身。2007年プロ入り(46期) / ライセンスNo.1145。168cm72kg、右投げ。優勝1回。JOC強化スタッフ・日本スポーツ協会公認指導員・USBCシルバーコーチ・JBC公認ドリラー